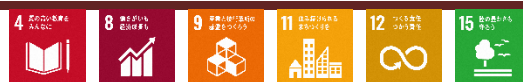


## V 菊川茶文化の創造と情報発信



### 1 緑豊かな景観を活かした菊川茶文化の創造と情報発信

#### (1) 菊川茶とグリーンツーリズム

##### 【現状】

菊川茶産地は集団的に広がる茶園と、その周辺の茶草場や里山との調和が比較的とれた茶園が市内各所に存在し緑豊かな景観を醸し出している。

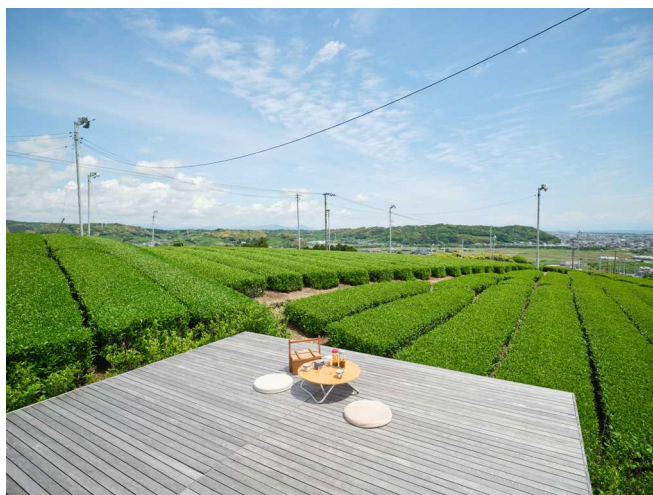
##### 【課題】

茶園そのものの景観に加えて、菊川市の緑豊かな景観を活かし、「自然の豊かさ」、「静かさ」、「開放感」などの景観的価値をアピールしていくことが有利であり、景観としての価値をより高めていく必要がある。

##### 【めざす方向】

| 指標           | 現状<br>(令和4年度) | 目標<br>(令和14年度)  |
|--------------|---------------|-----------------|
| お茶の間テラス設置箇所数 | 0箇所           | 3箇所<br>(移動式も含む) |

- こうした景観を一望できる場所を「お茶の間テラス」などに活用し、観光資源とする。実現のための推進組織を立ち上げ運営主体を明確にして取り組む。
- 茶生産経営体と連携した茶園オーナー制度を導入し体験型グリーンツーリズムを推進。
- 茶と観光・宿泊施設・飲食業等と連携して、交流や体験型のグリーンツーリズムなどに取り組むなど6次産業化への発展を図る。
- 市内のホテルや旅館、飲食店等と連携した「ティーペアリング」等のサービスの拡大。食事や料理と組み合わせた菊川茶の新たな魅力とファンを獲得し知名度の向上に繋げていく。



この写真はイメージです

## V 菊川茶文化の創造と情報発信



### (2) 菊川茶の文化的価値の情報発信

#### 【現状】

菊川市の集団造成された茶園は周辺の里山と調和し景観的価値を高めている。また、本市には、国、県、市が指定する有形・無形文化財が多くあり、これらは歴史的、学術的にも高い価値を有し、貴重な文化財として守られている。

#### 【課題】

菊川市の緑豊かな茶園景観、また茶に関連する有形・無形文化財等地域資源を活用した情報発信が求められる。

#### 【めざす方向】

- 消費地における菊川茶の認知度は低く「深蒸し茶発祥の地」としてのアピールと菊川市の緑豊かな茶園景観、茶草場農法や菊川市の茶に関連した有形、無形文化財等を活用した情報発信に努める。
- リーフ茶の需要が大きく減少する中、深蒸し菊川茶を基軸としつつも、流通販売業者、食品会社等と連携・協業し消費者のライフスタイルの変化に対応した菊川茶の新たな商品コンテンツの発信に力を入れる。



JR 東海道本線菊川駅南口広場



菊川西方南部造成事業（施工 S47～48）



はじめてのきくがわ茶

# V 菊川茶文化の創造と情報発信



## 2 茶草場農法によるエシカル消費の醸成

### (1) 茶草場農法によるエシカル消費の醸成

#### 【現状】

茶草場農法の持つ生物多様性や環境保全効果などが産地から実需者(消費者)等に対して情報発信が不十分である。

#### 【課題】

茶草場農法は、良質茶の生産と生物多様性の確保とともに環境保全効果が高いことを、実需者(消費者)等へ情報発信を積極的に行い、環境に配慮した「エシカル」への関心が高まっており、これを好機と捉えて消費拡大に繋げていく。

#### 【めざす方向】

- 世界農業遺産「静岡の茶草場農法」推進協議会等と連携し、生物多様性や環境負荷軽減に貢献できる「茶草場農法」を広く情報発信し、「茶草場農法」で生産された茶の付加価値向上とエシカル消費に繋げていく。
- 「静岡の茶草場農法」により生産・加工された商品や媒体等へ応援ロゴマークや生物多様性保全貢献度表示シールの活用と普及。
- 国際イベントや大都市圏での「静岡の茶草場農法」のPR活動の実施。



このお茶は、世界農業遺産  
静岡の茶草場農法  
の実践者により生産され  
たものです。  
生物多様性保全貢献度

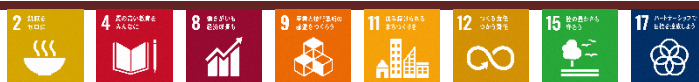


この表示は生物多様性  
保全貢献度を茶葉の数「静岡の茶草場農法」  
でしめしたものです。 世界農業遺産  
推進協議会

生物多様性保全貢献度表紙シール



# V 菊川茶文化の創造と情報発信



## 3 若年層を対象とした茶育の推進

### (1) 若年層を対象とした茶育の推進

#### 【現状】

リーフ茶の需要が低迷し、とくに若い世代ほどリーフ茶離れが進んでいる傾向にある。

#### 【課題】

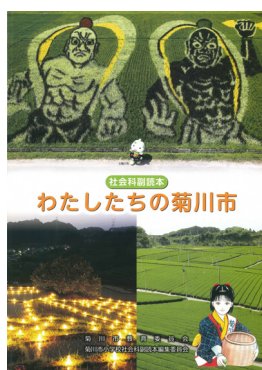
市内の幼・保育園、小・中学校、高校等へ茶愛飲機会の推進・普及が大切であり、菊川市の茶業に関心や興味、憧れをもってもらうことが大切である。さらに日本茶インストラクターなど茶育推進に携わることができる指導・助言者の育成も求められている。

#### 【めざす方向】

| 指標           | 現状<br>(令和元年度) | 目標<br>(令和14年度) |
|--------------|---------------|----------------|
| お茶の淹れ方教室実施回数 | 20回/年         | 20回以上/年        |

(現状値については新型コロナウイルス拡大前の令和元年度とする)

- 市内の幼・保育園、小・中学校、高校等へ茶愛飲機会の推進・普及を行い、リーフ茶離れが進む中、幼・保育園、小・中学校、高校等、茶業関係団体、日本茶インストラクター協会菊川支部、菊川茶業協会等と連携し、茶の淹れ方教室、茶工場見学、茶摘み体験、菊川の産地や歴史・文化を学ぶなど茶に親しむ文化を定着させる。また、茶育推進に貢献していただける日本茶インストラクターなどを維持していくために、資格取得に対する支援などを行い増やしていく。
- 「小・中学校の児童生徒の静岡茶の愛飲の促進に関する条例」(静岡県条例第53号)に基づき、小・中学校において、家庭と地域と連携した愛飲機会の拡大と継続に向けた取り組み。
- 教育現場との連携を強め、小学校社会科副読本「わたしたちの菊川市:茶農家の仕事」等を活用した茶育の推進を図る。
- T-I グランプリの開催支援。

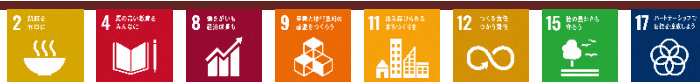


小学校社会科副読本  
「わたしたちの菊川市:茶農家の仕事」



日本茶インストラクターによる  
茶育推進状況

## V 菊川茶文化の創造と情報発信



### 4 手揉み文化の継承

#### (1) 手揉み文化の継承

##### 【現状】

菊川市を中心とする手揉み製法の流派は「小笠流」で、献上茶謹製事業にも大きな功績を残す文化的価値の高い手揉み技術が伝承されている。

##### 【課題】

日本の煎茶製造技術の原点は「手揉み」である。今後も手揉み技術を後世に伝えていくことが製茶技術と茶文化の継承には欠かせない。

##### 【めざす方向】

- 🍃 菊川市手揉み保存会の活動支援。
- 🍃 若手後継者の育成支援。
- 🍃 小・中学校等及び各種茶イベント等における手揉み技術に触れる実演会の開催。



小学校における手揉み実演会



市内イベントにおける手揉み実演



新茶手揉み（献上）